

教科「国語」シラバス

Ⅰ. 学習の到達目標と評価の観点

(教科名) 国語	週の授業数	学科・学年・学級	使用教科書と補助教材
	3	中学 第二学年	『国語 2』(光村図書) 『標準漢字演習(5～2級)』(東京法令出版) 『ワーク国語中2』(Educational Network) 『SCHOOL RENSEI 現代文 理解片』(育伸社)『中学書写一～三年』(光村図書)『ウイニング国語 I』 ※スタディサブリの通年講座から「中2 国語(光村図書 国語)」を視聴すると、教科書に対応した講座を視聴することが可能。
学習の到達目標	①総合的な国語力を身につけさせる。→様々な文章を通して読解・鑑賞の方法を習得し、ものの見方や考えを深める。「より多く、より質の高い読書をする」ことを指導する。②思考力・表現力を身につけさせる。→自分の意見を論理的に書いたり、発表したりすることができるようにする。①で読んだ本で、感動したこと・考えたことなどを自分の言葉でまとめて発表する場を作る。③基礎的な知識をしっかりと身につけさせる。→辞書を積極的に使用することを指示すると同時に、漢字小テストを随時実施して語句知識を豊かにし、表現力の向上を図る。		
評価の観点	基本的な漢字を身につけ、学習した作品・文章から語彙を広げ、語感を磨くことで確かな国語の力を獲得する。《知識・技能》		
	何を、何のために、どう学ぶかを把握し、「捉える」「読み深める」「考えを持つ」という課題に取り組む。個の活動と集団での活動を行き来しながら、多様性の中で自分の考えを確立する。《思考力・判断力・表現力》		
	自ら整理したり考えたり発信したりすることで、身につけた国語力をさらに強化し、生きる力に転化していく。《主体性・多様性・共同性》		

【定期考査における観点別評価について】

年間5回の定期考査において、各回とも問題ごとに《知識・技能》《思考力・判断力・表現力》《主体性・多様性・共同性》の3観点における評価を行い、点数化し、評定算出の基本資料とする。

【点数化が難しい科目や課題について】

- A：「十分満足できる」状況と判断されるもの……………100%
- B：「おおむね満足できる」状況と判断されるもの………… 80%
- C：「努力を要する」状況と判断されるもの…………… 60%
- D：未提出、未実施…………… 0%

2. 学習計画及び評価方法等

※教育的効果を考え、事前に生徒に説明した上、扱う教材・内容を変更することもある。

	単元	学習のねらい	学習のポイント、使用教材等
Ⅰ 学期 中間 考 査 ま で	①小説「アイスプラネット」椎名誠 ②報告「クマゼミ増加の原因を探る」沼田英治 ③思考のレッスン「具体と抽象」	①登場人物同士の言動や心情を表す表現などに注意して、作品を読み取る。家庭という背景によって省略されたコミュニケーションからより多くの思考・感情をくみ取れるよう読解力を高める。②作品に表れているものの見方や考えを捉え、主題について考える。③論理的思考力と科学的な素養の基礎を身につけさせる。	使用教材「国語2」
Ⅰ 学 期 期 末 考 査 ま で	①メディアを比べよう「自分で考える時間を持つ」池上彰 ②多様な方法で情報を集めよう ③随筆「字のない葉書」向田邦子	①②身の回りにあるメディアについて、速報性・詳細さ・信頼性という観点で比較し、その特長を理解して、目的や状況に応じたメディアの選び方について考える。各メディアのメリット、デメリットを正しく理解し、状況に応じて適切に使い分ける力を身に付ける。③登場人物の言動の意味を考え、人柄や心情を捉える。父親に対する「私」の思いを捉え、自分の考えを持つ。	使用教材「国語2」
2 学 期 中 間 考 査 ま で	①小説「盆土産」三浦哲郎 ②随筆「言葉の力」大岡信 ③短歌「短歌に親しむ」栗木京子 ④読書「読書を楽しむ」	①構成や登場人物の描写に着目して、人柄や心情を読み取る。作品に描かれている優しさや温かさを、表現に即して読み味わう。②筆者の考え方について理解を深めたいうえで自分の考えを持ち、これからの「言葉」との向き合い方を見つめる。③近現代の短歌について理解し慣れ親しむ。情景などを表す多様な語句に着目し、語感を磨く。読書を通して、時代や国境を超えて多くの人物や物事と出会い、様々な立場や考え方を知り、自分の考えを広げたり深めたりする。④夏期休暇中に読んだ本の紹介文を発表し評価し合い、知的好奇心をかき立てる読書を楽しむ。	使用教材「国語2」
2 学 期 期 末 考 査 ま で	①論説「モアイは語る」安田喜憲 ②討論「立場を尊重して話し合おう」ディベート ③評論「君は最後の晩餐を知っているか」布施英利 「最後の晩餐の新しさ」藤原えみり	①文章の構成を押さえた上で、筆者の意見は何か、それはどのような根拠に基づいているかを正確に捉える。②構成や論理の展開の妥当性を吟味し、筆者の主張に対する自分の考えをまとめる。③立場を明確にして、適切な根拠とともに意見を述べる。お互いの立場や考えを尊重しながら話し合う。④異なる立場の人と話し合う時には、お互いの考えの共通点と相違点を整理しながら、論点を踏まえて話したり聞いたりする必要があることを知る。⑤観点を明確にして2つの文章を比較し、自分なりの考えを持つ。文章における具体と抽象の関係を理解する。	使用教材「国語2」

3 学 期 期 末 考 査 ま で	①小説「走れメロス」太宰治 ②書く「構成や展開を工夫して書く」	①様々な表現に触れ、人間の多様な営みへの理解を深める。描写や会話に着目しながら、登場人物の人物像の変化を味わう。②登場人物の行動や考えについて、自分の考えを持つ。③「ある日の自分」を見つめて、私たちの生活そのものが物語になることに気付くと同時に、自分の心情や考え方の変化を認識する。④物語するのに効果的な順序や、読者に共感しながら読んでもらえる構成を工夫する。	使用教材「国語2」
---	------------------------------------	--	-----------

※教育的効果を考え、事前に生徒に説明した上、扱う教材・内容を変更することもある。

【成績評価の概要について】
(1) 1学期における評価の対象（国語Ⅰ） ① 中間考査：100点（知識・技能や、思考力・表現力の評価） ② 期末考査：100点（知識・技能や、思考力・表現力の評価） ③ 授業内小テスト、提出物、練習問題に取り組む姿勢、授業に取り組む姿勢などの平常点：60点（関心・意欲・態度などの評価） (2) 学期評定の算出方法 ① 国語Ⅱと合算し、評定を算出する。 ② 国語Ⅱも、(1)の①と②は同様であるが、③は40点である(週あたりの授業時間が国語Ⅰが3時間、国語Ⅱが2時間であるため)。 ③ 国語Ⅰと国語Ⅱの定期考査の素点合計400点に対し、平常点合計は100点とし(素点：平常点＝8：2)、多面的評価を行う。 (3) 年度末評定の算出方法 ① 国語Ⅱと合算し、評定を算出する。 ② 国語Ⅱも、(1)の①と②は同様であるが、③は40点である(週あたりの授業時間が国語Ⅰが3時間、国語Ⅱが2時間であるため)。 ③ 国語Ⅰと国語Ⅱの定期考査の素点合計1000点に対し、平常点合計は250点とし(素点：平常点＝8：2)、多面的評価を行う。

教科「国語」シラバス

I. 学習の到達目標と評価の観点

(教科名) 国語	週の授業数	学科・学年・学級	使用教科書と補助教材
(科目) 国語Ⅱ	2	中学 第二学年	『国語2』(光村書店) 『的確につかむ 文法の学習』(浜島書店) 『基礎から学ぶ 解析古典文法 三訂版』(桐原書店) 『改訂版 ビギナーズ古典(古文・漢文)』(尚文出版)
学習の到達目標	① 前年度からの続きとして、現代文法を学ぶ(知識の習得と、その運用能力)。 ② 基本的な古文や漢文を、自らの力で主体的に読み解き、本文の内容を正確に把握する力を身につけること(主体性を基本とした確かな読解力)。 ③ ②に向けて、基本的な古文単語や文法事項、古典常識、文学史などの知識を習得し、それらを文脈の中で活用する力を身につけること(知識の習得と、その運用能力)。 ④ 古典世界と現代社会との対比を通して、古代人の思想や思考、生活などを自ら探究し、想像する力を高めること(探究力と想像力)。 ⑤ 古文や漢文の内容について、他者との対話や議論を通して、自分の考えを表現したり、他者の考えに共感したりする力を身につけること(表現力と共感力)。		
評価の観点	現代文法を習得することで、文章表現の正しい方法を獲得している。古典分野においては、基本的な古文単語や文法事項、古典常識、文学史などの知識を習得し、それらを文脈の中で活用する力を身につけている。《知識・技能》		
	現代文法を体系的に学んだことで、口頭表現/文章表現ともに、その力を向上させている。古典分野においては、古典世界と現代社会との対比を通して、古代人の思想や思考、生活などを想像する力を高め、古文や漢文の内容について、他者との対話や議論を通して、自己の考えを表現する力を身につけている。《思考力・判断力・表現力》		
	現代文法を学び直し、自身の日常における表現を見直す契機とする。古典分野においては、基本的な古文や漢文を、自らの力で主体的に読み解き、本文の内容を正確に把握する力や、他者との対話や議論を通して、他者の考えに共感する力を身につけている。《主体性・多様性・協働性》		

【定期考査における観点別評価について】

年間5回の定期考査において、各回とも問題ごとに《知識・技能》《思考力・判断力・表現力》《主体性・多様性・共同性》の3観点における評価を行い、点数化し、評定算出の基本資料とする。

【点数化が難しい科目や課題について】

- A: 「十分満足できる」状況と判断されるもの……………100%
 B: 「おおむね満足できる」状況と判断されるもの……………80%
 C: 「努力を要する」状況と判断されるもの……………60%
 D: 未提出、未実施……………0%

2. 学習計画及び評価方法等

※教育的効果を考え、事前に生徒に説明した上、扱う教材・内容を変更することもある。

	単元	学習のねらい	学習のポイント、使用教材等
Ⅰ 学期 中間 考 査 ま で	①連体詞 ②副詞 ③格助詞「の・が」 ④接続助詞「て・が・ば」 ⑤副助詞「は・も・こそ・さえ」 ⑥終助詞「か・な」	①～⑥現代文法の連体詞・副詞・助詞について理解する。授業で扱った助詞についてはその意味や用法を覚える。 ①～⑥習得した文法知識に関して、それらが日常で使われているときの文法的意味を弁別できるようになる。	*助詞に関しては、教科書掲載の全てを扱うのではなく、特に重要なものに絞る(教科会にて選別)。 *使用教材 『的確につかむ 文法の学習』
Ⅰ 学期 期 末 考 査 ま で	①助動詞「れる/られる・せる/させる・ない/ぬ・た・よう/う」 ②歴史的仮名遣 ③古文の読み方 ④陰暦・古時刻・古方位	①現代文法の助動詞について、授業で扱ったものに関してはその文法的意味と活用表とを覚える。 ①前年度履修範囲の用言の知識と総合し、助動詞を文中にて円滑に活用させることができるようになる。 ②③古典文法を学ぶ基礎として、歴史的仮名遣や読み方を復習する(当該項目は前年度の履修範囲)。 ④古典文法を学ぶにあたり、その時代の背景や文化を知る。	*助動詞に関しては、教科書掲載の全てを扱うのではなく、特に重要なものに絞る(教科会にて選別)。 *古典分野に関しては暗記ベースの基本事項が主となる。 *使用教材 『的確につかむ 文法の学習』 『改訂版 ビギナーズ古典(古文・漢文)』 『基礎から学ぶ 解析古典文法 三訂版』
2 学期 中 間 考 査 ま で	①変格活用 ②古典作品を読む(作品未定)。	①古文の文章を読むために必要な動詞について、その活用の種類や活用表を学ぶ。 ①それぞれの動詞について、その活用の種類や活用形を正確に見分けることができる。 ②学習した文法事項を確認しながら、文章読解をする。	*用言の活用を、自力でできるように練習を重ねる。 *文章読解においては、現代語訳と対校させながら、その内容も理解させるようにする。 *使用教材 『改訂版 ビギナーズ古典(古文・漢文)』 『基礎から学ぶ 解析古典文法 三訂版』
2 学期 期 末 考 査 ま で	①正格活用 ②古典作品を読む(作品未定)。	①古文の文章を読むために必要な動詞について、その活用の種類や活用表を学ぶ。 ①それぞれの動詞について、その活用の種類や活用形を正確に見分けることができる。 ②学習した文法事項を確認しながら、作品を読んでいく。文法的な理解だけでなく、文章の書かれた背景や文学的意味についても考える。	*用言の活用を、自力でできるように練習を重ねる。 *使用教材 『改訂版 ビギナーズ古典(古文・漢文)』 『基礎から学ぶ 解析古典文法 三訂版』 『国語2』(国語Ⅰの教科書)

3 学 期 期 末 考 査 ま で	①形容詞・形容動詞 ②漢文の返り点・書き下し ③古典作品を読む（作品未定）。	①形容詞・形容動詞について、その活用の種類や活用表を正確に見分けることができる。 ②漢文について知る。 ②漢文の返り点や書き下しについて、そのルールを学び、漢文を読めるようになる。 ③学習した文法事項を確認しながら、作品を読んでいく。文法的な理解だけでなく、文章の書かれた背景や文学的意味についても考える。	＊用言の活用を、自力でできるように練習を重ねる。 ＊古文と漢文との互換性を説明し、古文の学習を基底とした漢文訓読を意識させる。 ＊使用教材 『基礎から学ぶ 解析古典文法 三訂版』 『改訂版 ビギナーズ古典(古文・漢文)』
---	--	--	--

【成績評価の概要について】

(1) Ⅰ学期における評価の対象（国語Ⅱ）

- ① 中間考査：100点（知識・技能や、思考力・表現力の評価）
- ② 期末考査：100点（知識・技能や、思考力・表現力の評価）
- ③ 授業内で行う小テストや、授業への取り組み姿勢などの平常点：40点（関心・意欲・態度などの評価）

(2) 学期評定の算出方法

- ① 国語Ⅰと合算し、評定を算出する。
- ② 国語Ⅰも、(1)の①と②は同様であるが、③は60点である(週あたりの授業時間が国語Ⅰが3時間、国語Ⅱが2時間であるため)。
- ③ 国語Ⅰと国語Ⅱの定期考査の素点合計400点に対し、平常点合計は100点とし(素点：平常点＝8：2)、多面的評価を行う。

(3) 年度末評定の算出方法

- ① 国語Ⅰと合算し、評定を算出する。
- ② 国語Ⅰも、(1)の①と②は同様であるが、③は60点である(週あたりの授業時間が国語Ⅰが3時間、国語Ⅱが2時間であるため)。
- ③ 国語Ⅰと国語Ⅱの定期考査の素点合計1000点に対し、平常点合計は250点とし(素点：平常点＝8：2)、多面的評価を行う。